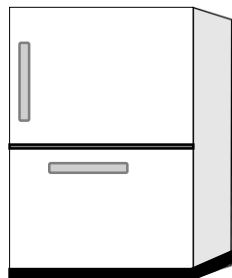


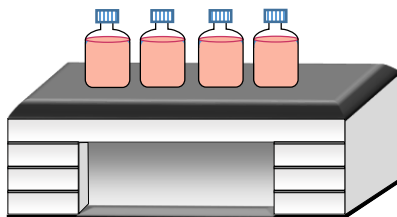
## FBSの解凍方法

実験スケジュールにあわせて解凍方法をお選び下さい。



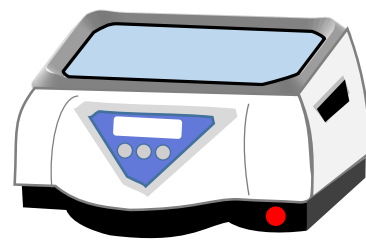
冷蔵庫 (2~6°C) で  
一晩かけて解凍<sup>1)</sup>

or



室温で解凍<sup>1)</sup>

or



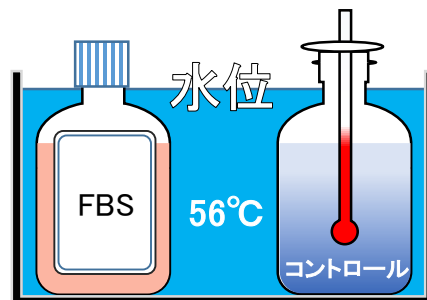
ウォーターバス  
(~37°C) で解凍<sup>1), 2)</sup>

- 1) 凍結融解の繰り返しは品質の低下を招くことがありますので、解凍後はすぐにご使用頂くか、必要量 (例: 50 ml) を分注して冷凍 (-70 または -20°C) で保管して下さい。また、必要に応じて非働化を行って下さい。
- 2) 完全に溶解するまで、転倒混和などで何度か攪拌して下さい。

## FBSの非働化方法

※非働化処理は必須ではありません。ご利用の細胞に応じてご検討下さい。

1. 解凍したFBSボトルを転倒混和で攪拌する。
2. コントロール用ボトルを用意する。  
コントロール用ボトルは非働化時の温度のモニタリングに使用するため、FBSボトルと同じ材質 (例: PETG) のボトルを用意し、FBSと同量の水を入れて下さい。水の温度は非働化を開始する際のFBSと揃えて下さい。
3. ウォーターバスの温度が56°C、水位がボトル内の液面よりも十分高いことを確認し、各ボトルを浸す。  
※非働化中にウォーターバスの水が蒸発し、水位が下がらないように注意する。
4. コントロール用ボトル内に、温度計/熱電温度計をセットする。  
※温度計はボトルの底に触れないように注意する。
5. ボトル内FBSの温度が均一になるよう、5分ごとに攪拌する。
6. 56°Cに達してから、30分間維持 (非働化処理) する。  
その間も5分ごとに攪拌する。
7. 56°Cで30分間の処理が終了後、速やかに冷却する。



※重りなどを使用しウォーターバスの中で  
ボトルが転倒しないようにご注意下さい。

技術に関する  
お問い合わせ

フナコシ株式会社 テクニカルサポート (試薬担当)

Tel. 03-5684-1620 Fax 03-5684-1775 e-mail: reagent@funakoshi.co.jp